

第二回感染対策研修会 開催報告

この号の内容

- 1 第二回感染対策研修会 開催報告
- 2 グローブ着用について

12月5日（火）に第二回感染対策研修会を実施しました。この研修会はコメディカルや事務職員、警備職員まで幅広い職種の方々が参加していただき、有意義な研修会となりました。

今回の研修会では医療関連感染（院内感染）やアウトブレイクとは何を指すのか？そしてこれらを防ぐために病院職員が行わなければならない予防策の周知をテーマに企画させていただきました。この研修会は全職員の参加が求めていますので、業務の都合で参加できなかった職員は研修会内容を録画した動画の視聴をお願いいたします。動画は電子カルテ端末より視聴可能で、「Yドライブ」→「00院内共通データ」→「1000 感染対策研修会動画」に格納されています。また動画と共に配布資料も格納されていますので、必要に応じて印刷してください。

動画の視聴可能期間は2018年1月26日（金）までとなっておりますので早めの視聴をお願いします。

研修会風景



グローブ着用について

MRSA 等の接触感染経路により伝播する微生物への対策として、グローブのような個人防護具の着用が重宝されます。特にグローブの着用は精神的な安心感が得られるためか、長時間の着用がみられる場合があります。

しかし感染予防の観点より考えれば長時間のグローブの着用はあまり好ましくありません。何故なら長時間の着用によりピンホールと呼ばれる穴が生じることが知られています。このピンホールは目に見えないほど小さい場合があります、このピンホールを介して約 30%のグローブ着用者の手に患者由来の微生物が付着した報告があります。



～イメージ図～

装着による伸展や物理的刺激により穴が生じる。
目に見えなくとも穴が開いている場合がある。

また一度処置等に使用したグローブは清潔とは言えずその表面は微生物に汚染していると考えられます。汚染されたグローブで他の患者や、パソコン等の環境物品に触れた場合は微生物の二次伝播の危険があります。時おり処置前のグローブを着用し仕事をしている職員を見かけますが、ドアノブ、カーテン等の環境に触れた際にグローブの微生物汚染が生じますのでグローブは不必要時には着用せず必要時のみ着用してください。

グローブを外した後の手指は清潔であるように思われますが、実際には不潔である可能性があるため手指衛生の実施が必要です。寒さが厳しくなり感染性胃腸炎やインフルエンザの流行、年末の大掃除等によりグローブを着用する機会も増えてきますが、手指衛生の実施も併せてお願いします。